

博報堂生活総合研究所 生活者にきいた“2020年 生活気分”を発表

● 2020年の景気・家計予想、「悪くなる」が過去最高

主な理由は「消費増税の影響」「国際情勢の不安定化」など

● 変化に備え、「食べる」を減らし「貯める」を増やしたい

今年お金をかけた：上位に「ふだんの食事」「外食」 来年お金をかけたい：上位に「貯金」「老後の準備」

博報堂生活総合研究所は、2015年から毎年秋に翌年の景況感などについて、全国の20～69歳男女3,900人に予想してもらう調査を実施しています。このたび最新の調査を加え、“2020年 生活気分”としてまとめました。

今回の結果では、世の中の景気・自分の家計の予想で「悪くなる」との見通しが急増し、調査開始以来最も高くなりました。世の中の変化については「多くなる」との見通しが高まっています。また、来年のお金の使い方についても、変化に備え、今年とは違うスタンスで臨もうとする生活者の意識がみえてきました。

“2020年 生活気分”調査結果のポイント

2020年の景況感

景気予想は「悪くなる」が急増。理由は「消費増税の影響」「国際情勢の不安定化」など

- ・世の中の景気が「悪くなる」との見通しは前回調査から10pt以上増加し、41.5%に。これまでで最も高かった2016年調査を上回り、過去最高となりました。同時に、「良くなる」との見通しも11.7%と過去最低を更新しています。また「変わらない」との見通しは46.8%と、調査開始以来初めて5割を下回りました。
- ・「悪くなる」理由(自由回答)を集計したところ、今年10月に行われた消費増税の影響や、米中関係など国際情勢の不安定化が多く挙げられました。
- ・また自分の家計の見通しも「悪くなる」が増加し37.8%となり、こちらも過去最高を更新しています。

2020年 世の中の変化度

来年、世の中の変化は「多くなる」が増加。「東京2020五輪」を上げる声が圧倒的

- ・来年、世の中のことで「変わった」と感じるものが、今年と比べて「多くなる」と予想した人が39.4%で、「少なくなる」の3.9%を大きく上回りました。
- ・「多くなる」と答えた人に、どんな変化がありそうか自由回答できくと、「東京2020オリンピック・パラリンピック」についての回答が多数あげられました。また「治安の悪化」や「異常気象・自然災害」、「キャッシュレス決済の普及促進」なども挙げられました。

2020年に お金をかけたいこと

1位は「旅行」。「貯金」や「老後の暮らしの準備」が上昇、「外食」などは今年より低位に

- ・2020年にお金をかけたいことは、全25項目のうち1位が「旅行」(27.5%)。今年お金をかけたことでも「旅行」が1位で、生活者の旅行意欲の高さがうかがえます。
- ・2位は僅差で「貯金」(25.5%)となりました。また「老後の暮らしの準備」(8位 11.6%)や「株など投資」(10位 9.4%)も今年お金をかけたものの回答よりスコアを伸ばし、順位も今年より上昇。「来年は暮らしの守りを固めたい」という意識がうかがえます。
- ・一方で、今年お金をかけたことで2位・3位の「ふだんの食事」「外食」は、来年については10pt以上スコアを落とし、順位を今年より下げています(それぞれ4位・5位)。

2020年に 始めたい/やめたいこと

来年始めたいことは「運動・体操・筋トレ」、やめたいことは「無駄遣い・衝動買い」

- ・2020年に「思い切って始めたいことがある」と答えた人は29.4%で、「思い切ってやめたいことがある」は19.8%となりました。いずれも調査開始以来最も低いスコアとなりました。
- ・来年始めたいこととしては、「運動・体操・筋トレ」「貯蓄」「副業」がトップ3に挙がりました。「運動・体操・筋トレ」「貯蓄」は女性、「副業」は男性でスコアが高くなっています。
- ・来年思い切ってやめたいことでは、「無駄遣い・衝動買い」「無理しての人付き合い」「食べ過ぎ・飲み過ぎ」がトップ3に。この3つをはじめ、上位項目のほとんどで女性のスコアが高い結果となりました。

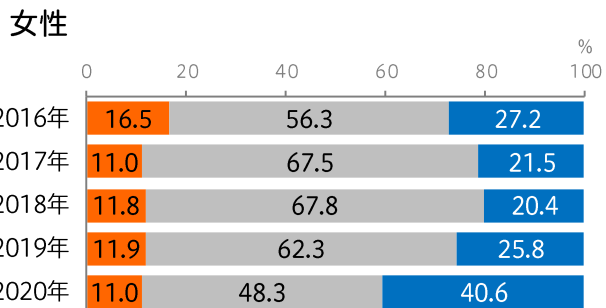
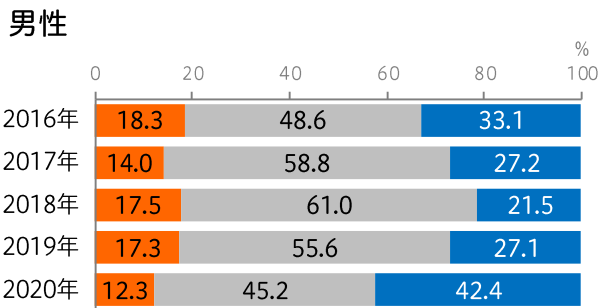
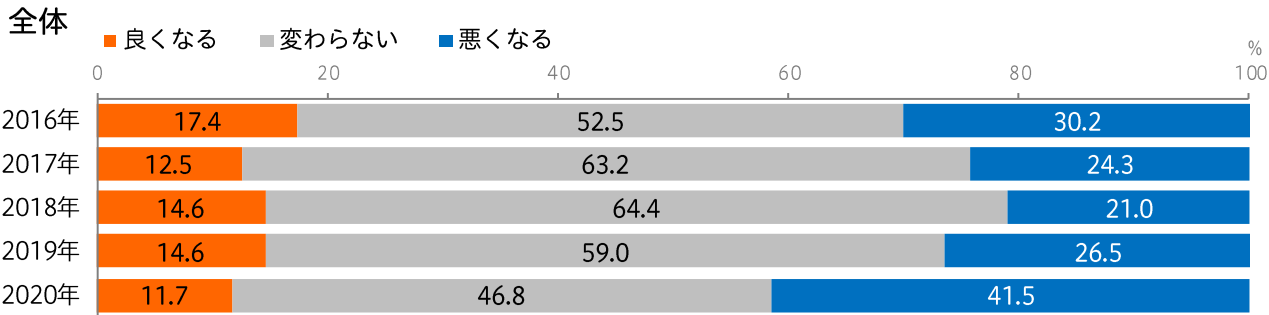
景気予想は「悪くなる」が急増。理由は「消費増税の影響」「国際情勢の不安定化」など

- 世の中の景気が「悪くなる」との見通しは前回調査から10pt以上増加し、41.5%に。これまでで最も高かった2016年調査を上回り、過去最高となりました。同時に、「良くなる」との見通しも11.7%と過去最低を更新しています。また「変わらない」との見通しは46.8%と、調査開始以来初めて5割を下回りました。
- 「悪くなる」理由(自由回答)を集計したところ、今年10月に行われた消費増税の影響や、米中関係など国際情勢の不安定化が多く挙げられました。

来年の「世の中の景気」予想

Q 来年の「世の中の景気」は、今年と比べてどうなと思いますか(単一回答)

※西暦は毎年秋に予想してもらう来年のこと。例えば、「2020年」の数値は今年(2019年の秋)に調査した、来年(2020年)の予想を表します。



「良くなる」と思う理由 ※自由回答を集計したトップ5、%は「良くなる」と回答した人ベースで算出 (全体456人 男性240人 女性216人)

		全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催	68.4	64.6	72.7	-8.1	観光やグッズの購入など経済活動が活発になりそう(男性44歳・兵庫県) 来日する人もさらに増えるだろうし、お祭りムードで国内の消費も増えそう(女性37歳・愛知県)
2位	経済の好転／消費活性化	26.3	25.0	27.8	-2.8	アベノミクスの影響(男性32歳・福岡県) 安倍政権が安定しているから(男性46歳・北海道)
3位	希望的観測／プラス思考	5.9	3.3	8.8	-5.5	気持ちの問題だから良くなると思った方が健全(男性51歳・愛知県) 良くなって欲しいという願望をこめている(女性41歳・宮城県)
4位	消費増税・ポイント還元施策の効果	4.2	3.8	4.6	-0.8	気にしていない人が多いから。使う量は変わらずに消費税が上がるから(男性25歳・愛知県) 増税は痛い、保育料無料などのメリットがあり、そのぶんを買い物に回せそう(女性26歳・北海道)
5位	キャッシュレス決済の普及促進	2.9	2.5	3.2	-0.7	キャッシュレス化で意識しない消費が増えてお金の回りが良くなる(男性34歳・神奈川県) キャッシュレス化によって、お得感を得られたりと思う(女性24歳・東京都)

(%) (pt)

「悪くなる」と思う理由 ※自由回答を集計したトップ5、%は「悪くなる」と回答した人ベースで算出 (全体1,620人 男性825人 女性795人)

		全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位	消費増税の影響 ／ポイント還元施策の終了	44.4	39.0	50.1	-11.1	物価も上がり、国民がものを買えなくなり、会社の業績が悪化して不景気に戻る(男性31歳・奈良県) キャッシュレス消費者還元が始まったが、それも来年半ばで終わるため(女性25歳・東京都)
2位	節約意識の高まりによる 買い控えの影響	22.8	15.9	30.1	-14.2	衝動買いなど、必要以外の遊興費などの支出を極力控える人がますます増える(男性68歳・愛知県) 外食が減ったり、買い物を控えるので、景気循環が滞るから(女性54歳・新潟県)
3位	国際情勢の不安 ／世界経済の減速	13.8	18.5	8.8	+ 9.7	アメリカの景気減速・中国との関税戦争やイギリスのEU離脱等で景気が冷え込む(男性65歳・香川県) 保護主義をとる国が増えているので、これまでより関税などの影響を受けやすそう(女性60歳・福岡県)
4位	東京2020オリンピック・ パラリンピックの影響・反動	10.9	12.7	9.1	+ 3.6	一時的に盛り上がるが終わったあとの急落があると思う(男性37歳・福岡県) 自分が住んでいる地域まで景気が回るようにはならないと思う(女性34歳・宮城県)
5位	収入の低迷・減少／生活苦	8.9	6.9	10.9	-4.0	給与と所得が国民全体で上昇しているわけではないから(男性34歳・東京都) 給与が上がらず、年金も消費税のせいで実質低下(女性61歳・石川県)

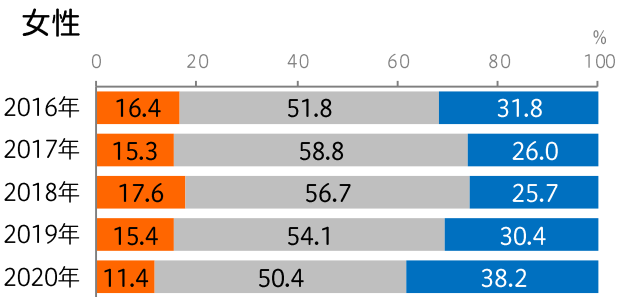
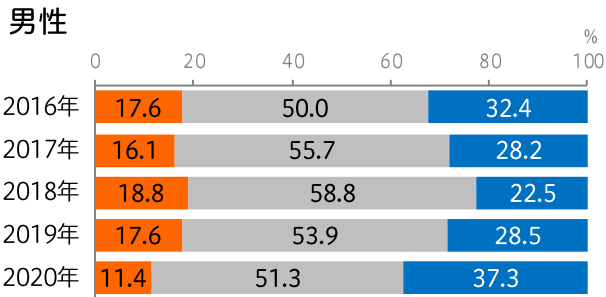
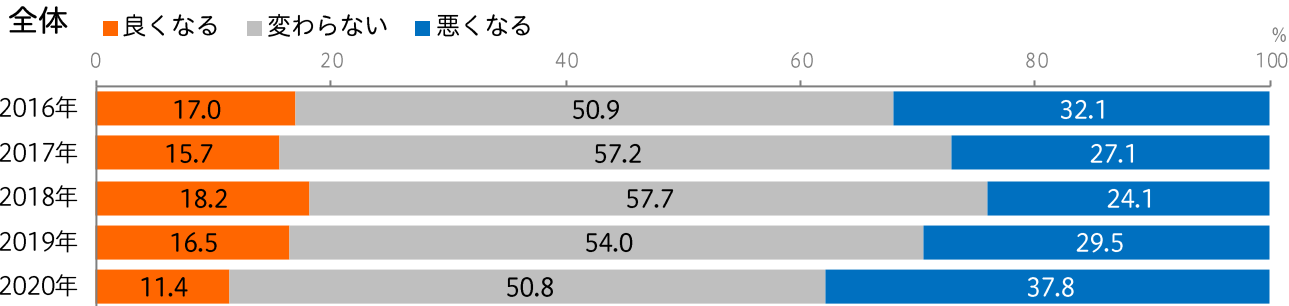
(%) (pt)

「自分の家計」予想も「悪くなる」が増加。理由は「収入の低迷・減少」「消費増税の影響」

- 自分の家計の見通しも、世の中の景気と同様に「悪くなる」が増加し37.8%に。これまで最も「悪くなる」が高かった2016年を上回り、過去最高を更新しています。また「良くなる」との回答は11.4%となり、過去最低を更新しました。
- 「悪くなる」と答えた理由をみると、「収入の低迷・減少」や「消費増税の影響」を挙げる声が目立ちました。また、子育てや仕事に関係した収入・支出の変化なども上位となりました。

来年の「自分の家計」予想 Q 来年の「自分の家計状態」は、今年と比べてどうなと思いますか(単一回答)

※西暦は毎年秋に予想してもらう来年のこと。例えば、「2020年」の数値は今年(2019年の秋)に調査した、来年(2020年)の予想を表します。



「良くなる」と思う理由 ※自由回答を集計したトップ5、%は「良くなる」と回答した人ベースで算出 (全体445人 男性222人 女性223人)

		全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位	収入の増加／副業	30.3	30.2	30.5	-0.3	副業をして収入を増やすので(男性46歳・広島県) 息子の仕事安定してきたので、わが家の収入が増えるから(女性55歳・石川県)
2位	就職・転職などによる キャリアアップ	14.8	14.4	15.2	-0.8	転職して収入が増えたから(男性27歳・大阪府) 今は仕事をしてないが来年から働く予定だから(女性27歳・宮城県)
3位	希望的観測／プラス思考	6.1	3.2	9.0	-5.8	なって欲しいという願望(男性41歳・石川県) 今が充実しているから(女性23歳・静岡県)
4位	節約意識の高まりによる 家計の見直しの効果	5.8	4.5	7.2	-2.7	景気が悪くはなるが、節約方法をどんどん身につけているため(男性29歳・千葉県) 家計状態を見直したので少しは無駄な出費が減るはず(女性32歳・静岡県)
5位	家族構成変化 (子供の独立などでの負担減)	5.2	3.6	6.7	-3.1	大学を卒業する子どもがいるので、家計負担が減る(男性55歳・千葉県) 子どもの受験が終わるため教育費が減るから(女性50歳・東京都)
				(%)	(pt)	

「悪くなる」と思う理由 ※自由回答を集計したトップ5、%は「悪くなる」と回答した人ベースで算出 (全体1,473人 男性725人 女性748人)

		全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位	収入の低迷・減少／生活苦	42.4	42.8	42.0	+0.8	残業ができなくなることが予想されるが、固定給は上がらないと思うから(男性28歳・埼玉県) 勤め先からの給料は長年上がらず、仕事も少しずつ減らされているから(女性40歳・福岡県)
2位	消費増税の影響 ／ポイント還元施策の終了	23.0	19.7	26.2	-6.5	普通に生活をしてても増税分が家計を圧迫する(男性63歳・岐阜県) キャッシュレス決済還元期間が終了し増税分がもろにかかってくる(女性62歳・愛知県)
3位	物価上昇／出費の増加	14.1	12.6	15.5	-2.9	輸送費の上昇により食料品の価格も上がると考えられる(男性49歳・新潟県) 家のリフォームにお金がかかりそう(女性60歳・茨城県)
4位	子育て支出の増加 (受験、教育費など)	8.8	5.1	12.4	-7.3	子どもの大学進学で仕送りが発生する(男性49歳・静岡県) 子どもが産まれて室温に気を遣ったりミルク代やらで出費がかなり増える(女性31歳・大阪府)
5位	仕事量の減少 ／転職などによる先行き不安	4.6	3.6	5.6	-2.0	会社を辞める予定だから(男性62歳・香川県) 仕事の契約・更新をされない可能性があるから(女性45歳・宮城県)

(%) (pt)

来年、世の中の変化は「多くなる」が増加。「東京2020五輪」を挙げる声が圧倒的

- ・ 来年、世の中のことで「変わった」と感じる事が、今年と比べて「多くなる」と予想した人が39.4%で、「少なくなる」の3.9%を大きく上回りました。
- ・ 「多くなる」と答えた人に、どんな変化がありそうか自由回答できくと、「東京2020オリンピック・パラリンピック」についての回答が多数あげられました。また「治安の悪化」や「異常気象・自然災害」、「キャッシュレス決済の普及促進」なども挙げられました。

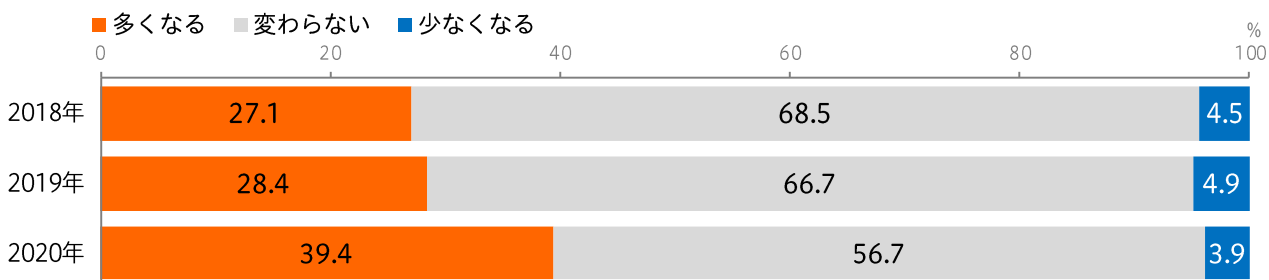
来年の「世の中の変化」予想



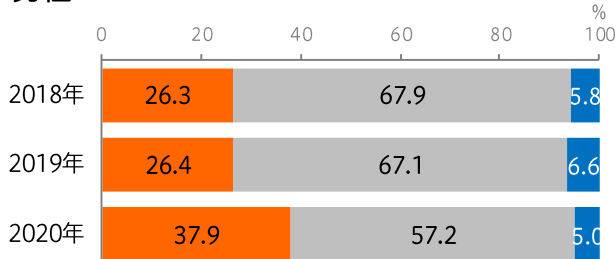
来年、あなたから見た世の中のことで「変わった」と感じることは、今年と比べて多くなると思いますか。(単一回答)

※西暦は毎年秋に予想してもらう来年のこと。例えば、「2020年」の数値は今年(2019年の秋)に調査した、来年(2020年)の予想を表します。

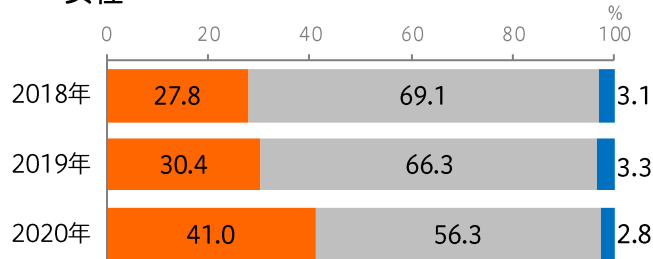
全体



男性



女性



来年多くなるのは、〇〇に関する変化

※自由回答を集計したトップ5、%は「多くなる」と回答した人ベースで算出(全体1,537人 男性736人 女性801人)

		全体	男性	女性	男-女	変化の具体例
1位	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催	22.7	20.2	25.0	-4.8	開催に向けて、インフラ整備や新技術・製品の発表が進みそうな気がするから(男性54歳・広島県) 新しい建物が完成したり、観光客向けのサービスが充実すると思う(女性29歳・北海道)
2位	治安悪化／事件・事故増加 ／モラル低下	11.2	8.7	13.5	-4.8	個人主義が増え自分さえ良ければと悪い方向に行く人が増える(男性55歳・福岡県) 煽り運転、高齢者ドライバーの事故などがまだまだ増えると思う(女性61歳・大阪府)
3位	異常気象 ／自然災害の被害拡大	9.7	8.7	10.6	-1.9	日本の気候が更に亜熱帯気候に近づき、災害が増えると思う(男性54歳・大阪府) さらに大きな災害が日常茶飯事になるような気がする(女性67歳・福岡県)
4位	キャッシュレス決済の 普及促進	8.4	6.1	10.5	-4.4	キャッシュレス化が進んで、それに伴う新しいビジネスやサービスが出てくる(男性59歳・広島県) お店にキャッシュレス決済が普及してレジが無人化しそう(女性52歳・愛知県)
5位	技術の進歩 (5G／AIなど)	8.1	10.1	6.4	+ 3.7	5Gによりできることが増え、自動運転・自動決済などができる(男性28歳・香川県) AIの普及で、今の自分が想像できないことが起こりそう(女性41歳・石川県)
		(%)			(pt)	

(%) (pt)

1位は「旅行」。「貯金」や「老後の暮らしの準備」が上昇、「外食」などは今年より低位に

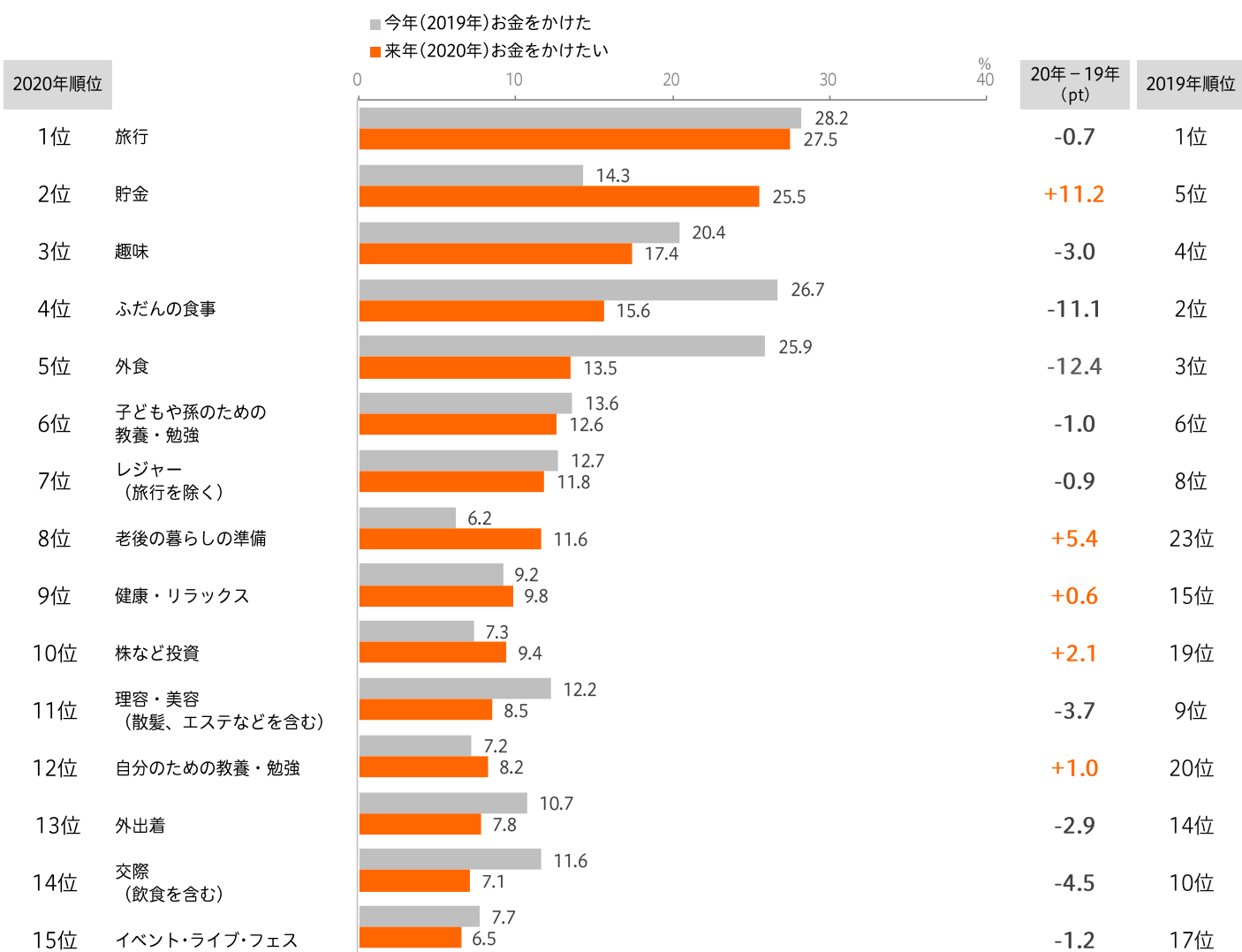
- 2020年にお金をかけたいことは、全25項目のうち1位が「旅行」(27.5%)。今年お金をかけたことでも「旅行」が1位で、生活者の旅行意欲の高さがうかがえます。
- 2位は僅差で「貯金」(25.5%)となりました。また「老後の暮らしの準備」(8位 11.6%)や「株など投資」(10位 9.4%)も今年お金をかけたものの回答よりスコアを伸ばし、順位も今年より上昇。「来年は暮らしの守りを固めたい」という意識がうかがえます。
- 一方で、今年お金をかけたことで2位・3位の「ふだんの食事」「外食」は、来年については10pt以上スコアを落とし、順位を今年より下げています(それぞれ4位・5位)。

今年お金をかけた & 来年お金をかけたいもの(上位15位)



今年(2019年)、あなたがお金をかけたものはどれですか。
来年(2020年)、お金をかけたいと思うものはどれですか。(ともに複数回答)

※全25項目のうち、上位15位までを2020年意向を基準にランキング



来年始めたいことは「運動・体操・筋トレ」、やめたいことは「無駄遣い・衝動買い」

- 2020年に「思い切って始めたいことがある」と答えた人は29.4%で、「思い切ってやめたいことがある」は19.8%となりました。いずれも調査開始以来最も低いスコアとなりました。
- 来年始めたいこととしては、「運動・体操・筋トレ」「貯蓄」「副業」がトップ3に挙がりました。「運動・体操・筋トレ」「貯蓄」は女性が、「副業」は男性でスコアが高くなっています。
- 来年思い切ってやめたいことでは、「無駄遣い・衝動買い」「無理しての人付き合い」「食べ過ぎ・飲み過ぎ」がトップ3に。この3つをはじめ、上位項目のほとんどで女性のスコアが高い結果となりました。

来年始めたいことが“ある”

Q 来年、「思い切って始めてみたいこと」はありますか(単一回答)

	(%)		(pt)	
	全体	男性	女性	男-女
2017年	35.4	32.4	38.4	-6.0
2018年	31.3	29.1	33.4	-4.3
2019年	30.8	29.1	32.6	-3.5
2020年	29.4	28.6	30.3	-1.7

来年やめたいことが“ある”

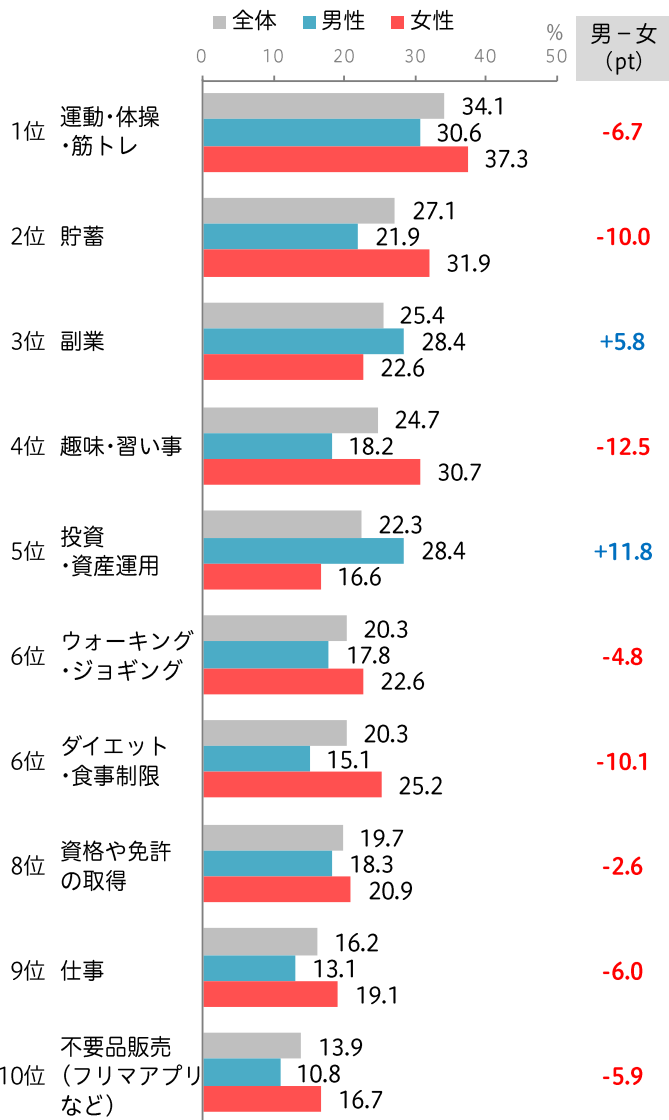
Q 来年、「思い切ってやめたいこと」はありますか(単一回答)

	(%)		(pt)	
	全体	男性	女性	男-女
2017年	23.5	22.9	24.0	-1.1
2018年	20.7	19.5	21.8	-2.3
2019年	20.6	19.4	21.8	-2.4
2020年	19.8	20.2	19.4	+0.8

来年始めたいこと(上位10位)

Q 来年、「思い切って始めてみたいこと」は何ですか(複数回答)

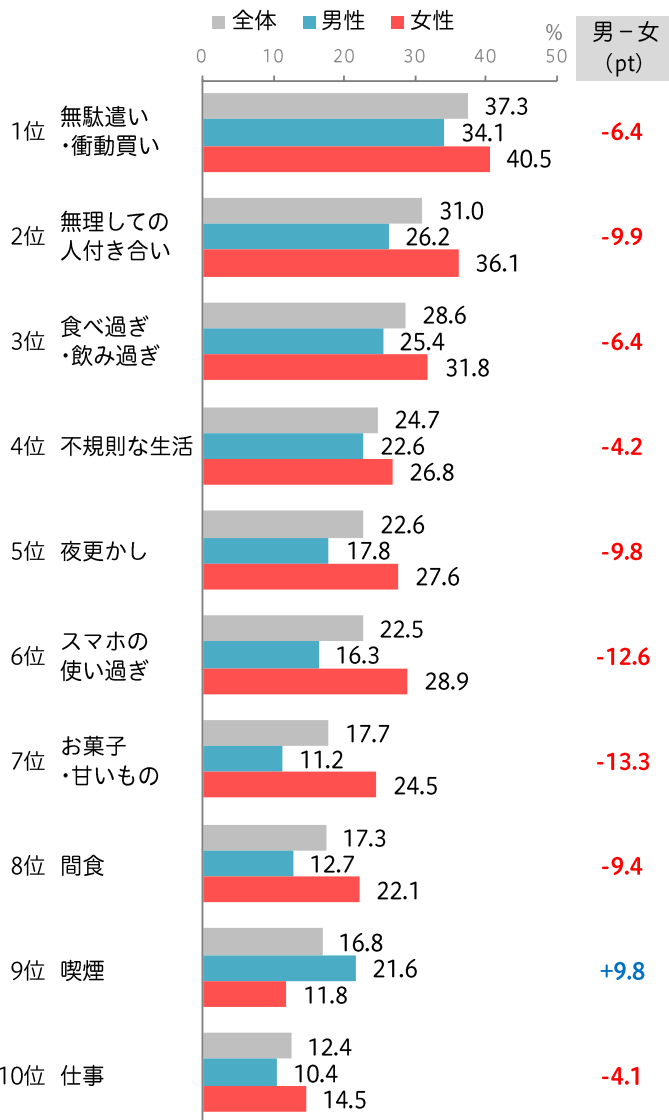
※2019年調査(2020年意向)
※始めたいことがある人へのみ質問(全体1,148人 男性556人 女性592人)
※数値は、始めたいことがある人ベースで算出
※全24行動のうち、上位10位までを全体を基準にランキング



来年やめたいこと(上位10位)

Q 来年、「思い切ってやめたいこと」は何ですか(複数回答)

※2019年調査(2020年意向)
※やめたいことがある人へのみ質問(全体773人 男性393人 女性380人)
※数値は、やめたいことがある人ベースで算出
※全24行動のうち、上位10位までを全体を基準にランキング



“生活気分” 調査概要

生活者が予想する来年の景況感や生活気分、行動意欲などを時系列で比較する調査。
初回(2016年予想)の2015年11月の調査以来、毎年秋に実施し、今回(2020年予想)は5回目となります。

(2020年予想)

調査地域 全国11都市
首都40km圏、名古屋40km圏、阪神30km圏、
札幌20km圏、仙台20km圏、新潟30km圏、
金沢20km圏、静岡20km圏、広島20km圏、
高松30km圏、福岡30km圏
調査手法 インターネット調査
調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,944人 女性1,956人
調査時期 2019年10月3日(木)～8日(火)
企画分析 博報堂生活総合研究所
実査集計 株式会社 H.M.マーケティングリサーチ

(2019年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,938人 女性1,962人
調査時期 2018年10月4日(木)～9日(火)

(2018年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,935人 女性1,965人
調査時期 2017年10月5日(木)～10日(火)

(2017年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,941人 女性1,959人
調査時期 2016年10月6日(木)～11日(火)

(2016年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,939人 女性1,961人
調査時期 2015年11月5日(木)～9日(月)

※調査対象、調査時期以外の調査設計は2020年予想と同じ